



最優秀作文発表

「わたしの体は海でできている」

石巻市立蛇田小学校4年 大森 心結

わたしは、ウニやカキや魚、海でとれる食べものが、大好きです。
わたしのおじいちゃんはむかし、大きな船に乗って、魚をとって
いたそうです。だから、手はぶあつくて大きいし、力も強いです。
おじいちゃんはいつも、

「魚を食べると頭がよくなるぞ。ほねも強くなるし、病気にもならないんだよ。」
と言って、魚のいい所を教えてください。

そんなおじいちゃんは、夏に海水よく場に行くと、海のゴミを拾って帰って来ます。

「どうして、海のゴミをわざわざ拾って帰るの？」

とわたしが聞くと、おじいちゃんは、

「人間がすてたゴミを、海の生き物がまちがえて食べてしまって、具合を悪くしてしまうからだよ。
みゆうは、海の食べ物で、こんなにじょうぶな体にももらっているんだから、みゆうも、海をきれい
にして帰ろうね。」

と言いました。

わたしはその話を聞いて、一生けん命にゴミをさがして拾いました。ビニールぶくろや、ペットボト
ルなどがたくさん落ちていました。

去年、ウミガメのニュースを見ました。ウミガメの鼻の中には、プラスチックのストローが入ってし
まっていて、とてもいたそうで、かわいそうでした。

わたしは、そんな海を見たくありません。海でそんなことにならないように、海でポイすてをするの
はやめてほしいなと思いました。かんきょうをよくして、海をきれいにしてほしいです。

おばあちゃんも、公園や山へピクニックに行くと、

「持ってきたゴミより、ひとつ多く持って帰ろうねー。」

と言います。

わたしのおじいちゃんとおばあちゃんは、すてきだなと思いました。

おじいちゃんが海を守ってくれたおかげで、今、わたしはおいしい魚を食べることができます。

おじいちゃんがみらいへつなげてくれた海を、今度はわたしがみらいへつなげていく番だと思いまし
た。

だって、わたしの体は、海の食べ物で、こんなにじょうぶにももらったのですから。





大会記念放流稚魚等の御紹介

石巻市立桜坂高等学校生徒の介添えにより、県内若手漁業者等が大会開催を記念して放流される稚魚等を御紹介しました。

宮城県漁業協同組合石巻市東部支所の石森隼人さんがマガキを、宮城県漁業協同組合七ヶ浜支所の鈴木颯太さんがノリを、宮城県漁業協同組合志津川支所の工藤忠司さんがエゾアワビを、志津川淡水漁業協同組合の千葉純一さんがイワナを御紹介しました。



マガキ 宮城県漁業協同組合石巻市東部支所
石森 隼人



ノリ 宮城県漁業協同組合七ヶ浜支所
鈴木 颯太



エゾアワビ 宮城県漁業協同組合志津川支所
工藤 忠司

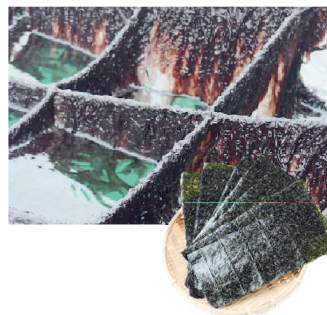


イワナ 志津川淡水漁業協同組合
千葉 純一

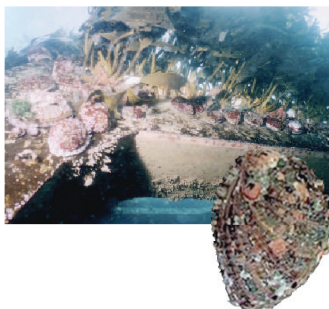
大会記念放流稚魚等



マガキ
本県では、約300年前に松島湾で養殖が始められ、現在では、全国2位の生産量を誇り、主に生食用として流通している。また、本県は、養殖用種ガキの生産県として有名で、全国に出荷されている。



ノリ
本県のノリ養殖業は、主に仙台湾で行われており、養殖の産地としては、国内で最北に位置している。親潮の恵みを受けて育てられた本県のノリは、「みちのく寒流のり」とブランド化され、高い評価を得ているほか、毎年開催される品評会で最高位を受賞したノリは、代々皇室に献上されている。



エゾアワビ
本県沿岸の唐桑半島から牡鹿半島周辺及び松島湾外海の岩礁地帯に生息している。磯根資源として大変重要な種であるが、近年漁獲量が減少傾向にあり、資源保護のため、9cm以下の採捕禁止措置が講じられているほか、県内各地で種苗放流が積極的に行われている。



イワナ
県内河川の上流域に生息し、遊漁者からの人気も高い魚である。山間部では、養殖業が古くから行われ、宮城県内水面水産試験場が開発した「伊達いわな」(全雌三倍体)は、お刺身で美味しく食べられることから、内水面の新たな特産品として期待されている。





若手漁業者等による御紹介の様子



御紹介容器等

この大会記念放流稚魚等の御紹介で使用した容器は、宮城伝統こけしの技術を活用して制作したもので、FSC 認証の県産スギ材のお盆に載せることで森と海の繋がりを表現しました。

「宮城伝統こけし」とは ※経済産業大臣指定伝統的工芸品

東北固有の工芸品である伝統こけしは、江戸末期ごろ、東北地方の温泉地において子供のみやげ品として生まれたものと伝えられています。伝統こけしの魅力は、もっとも簡略化された造形美に加え清楚で可憐な姿にあるといわれ、独特の形、模様を通して今日に受け継がれています。今回、「宮城伝統こけし組合連合会」の協力を得て、各系統を代表するこけし工人の方々に制作していただきました。



弥治郎こけし（マガキ） 鳴子こけし（ノリ） 作並こけし（エゾアワビ） 遠刈田こけし（イワナ）



津山木工芸品事業協同組合作



海づくりメッセージ

東日本大震災から10年の復興の歩みを踏まえ、漁業者・水産加工業者・林業者の方々が、自らのチャレンジや創造的復興への決意、豊かな海と持続可能な水産業の未来への展望を、映像を交えたりレー形式で発信しました。

◆シーン1：震災からの立ち上がり

震災を体験した漁業者が、呼びかけあいながら漁業や会社を再建していった状況や、震災をきっかけに挑戦した新たな事業形態について紹介しました。

石森 裕治

宮城県漁業協同組合石巻市東部支所運営委員長（石巻市）

震災直後の惨状を目の前にして、漁業はもうできないとさえ思いましたが、ワカメならすぐにでも収穫できると考え、今までやったことのなかったワカメをやらないかと浜のみんなに呼びかけました。15人から始めて、今では、38人がワカメを生産しています。若い世代が多く、浜は震災前より活気づいています。新しいチャレンジが後継者と未来を創る、そう私は実感しています。



◆シーン2：水産業の新たな担い手

震災後、宮城県の漁業・水産業に多くの仲間が加わっていった状況や、漁業者のアイデアを活かしながら宮城の生産者と消費者をつなぐ新たな試みを紹介しました。

高橋 未希

新規漁業就業者（石巻市）

私は海の空気が大好きです。教師だった私は仕事を辞めて、埼玉から石巻に移住し、漁業士の高橋陽一さんのもとで働き始めました。ワカメやコンブ、ホタテの養殖など、陽一さんは漁業の多彩な魅力を教えてくれます。そのすべてを吸収して一人前の漁師になりたいです。浜に生まれなくても、だれもが漁師になるチャンスはあると思います。海で働く毎日に生きがいを感じています。



小川 英樹【映像出演】

宮城県漁業協同組合河北町支所運営委員長（石巻市）

震災を機に、牡蠣養殖の経営規模が広がりました。さらに、これまで誰も実現できなかった長面浦での種ガキ採取にチャレンジしています。やるからには最高の牡蠣に育てようと手間暇をかけて育てています。もう住むことができなくなった長面ですが、代々育てて来た牡蠣には、ふるさとの海のDNAが宿っています。ふるさとの誇りを未来につないでいくことが私の役目だと思っています。





式典行事

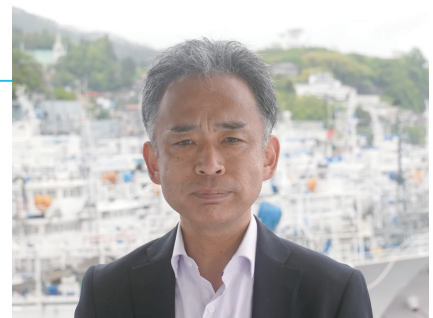
齊藤 和枝【映像出演】 気仙沼つばき会会長（気仙沼市）

魚をめぐるさまざまな仕事人が働く海辺のまちでは、魚があがらなければ始まりません。震災前から行っていた出船送りを震災後復活させようと、私たち、気仙沼つばき会は市民に呼びかけました。港を埋め尽くすほどの人がたくさん出船送りに集まった時には、その様子は忘れられません。震災を機に、漁師さんと海の仕事を大切に思う心を、私たちは確かめ合いました。その心こそ、未来の海をつくる礎です。



吉田 鶴男【映像出演】 宮城県北部船主協会事務局長（気仙沼市）

若い世代とじっくり話し合っ、遠洋漁業というものを理解してもらいながら、船主のみなさんとマッチングしています。洋上では、何より人間関係が大切。船員の育成こそ、海をめぐる仕事、港の未来に直結する。そんな責任を感じながら、大海原のロマンを若者たちと追いかけています。



魚谷 浩【映像出演】 一般社団法人フィッシャーマン・ジャパン フードプロデューサー・料理人（東京都）

宮城の若手漁師で結成したフィッシャーマン・ジャパンの一員として、東京を拠点に海産物の魅力や生産者たちの思いを、消費者に伝え続けています。若い世代にも日常的に魚介に親しんでもらおうとJR東京駅構内に期間限定の魚介のサンドイッチ店を出店しました。持続可能な漁業を後押しするため、具材にはASC認証の女川産ギンザケやMSC認証の塩竈産ピンチョウマグロなども活用しています。仲間たち、お客様とともに魚食の新たな可能性を膨らませていきたいです。



相澤 太【映像出演】 有限会社マルタ水産取締役専務（名取市）

震災後、閉上で新たに始められたシラス漁を盛り上げるために、シラスカフェを開業したり、仲間たちとしらす祭りを開催しています。震災後に恵まれたさまざまな人たちとのご縁と、これまでの経験が、今のすべてに生きています。伝統を生かしつつ、変化を恐れずに、6次化事業など新しい事業の可能性を追い求めていきます。宮城の海を若い力とネットワークで未来に引き継いでいきます。





式典行事

千葉 周【映像出演】

宮城県指導漁業士（塩竈市）

漁家経営を法人化して6次産業化にも取り組んでいます。また、宮城県漁業士会の活動では、ワークショップの開催やこども食堂への食材の提供による食育や魚食普及活動、水産の現場でのITの活用などにも取り組んでいます。社会とつながり、自らをアップデートすることで、度重なる環境の変化も乗り越えて、次世代に繋げられる持続可能な水産業を目指していきます。



◆シーン3：持続可能な漁業

海と山とのつながりを大切にした資源管理、ASC国際認証の取得やブランド化の推進など、宮城の漁業・水産業をより豊かにしていくためのさまざまな取組を紹介しました。

山下 貴司【映像出演】

みやぎ銀ざけ振興協議会事務局員（石巻市）

震災を機に、宮城の生産者の意識は変わりました。豊かな海を未来につなげたい、安全安心な魚を生産し、ブランド力をあげたい、みんながそういう意識を持ち始めたのです。その結果、養殖で初めてのGI認証の登録を受けることができました。これからは付加価値をより高めるために、県産チップを使ってスモークサーモンを作ったり、エサに県産米を入れたりするなど、林業や農業と一体となって、世界に誇れる食材を生み出していきたいと考えています。そんなオール宮城の海づくりを私たちは目指していきます。



佐藤 太一【映像出演】

株式会社佐久専務取締役（南三陸町）

カキは山から注ぐ恵みの水で生まれ、南三陸杉は海からあがってくる空気中の水分で育てられます。命はめぐっているのです。

私たちの町でカキ養殖を営む人たちが日本初の国際認証を取得しようとしていると耳にし、ぼくたちも負けていられないと森林のFSC認証を取得しました。FSCとASCの2つの国際認証を取得したことで、ぼくたちは海、里、森、人の命がめぐる未来を共有できるようになりました。海と山はつながっています。豊かな海を創るために必要なのは、私たち山の守人の力でもあるのです。



後藤 清広

宮城県漁業協同組合志津川支所戸倉出張所カキ部会長（南三陸町）

震災後、37人の漁師たちが思いをひとつにし、新しいカキ養殖に転換することを決めました。カキ筏の数を3分の1にし、海を守り、品質のよいカキ作りを目指したのです。数ある基準をクリアし、日本初のASC認証の取得に至りました。復興のためご支援いただいたみなさんへの感謝と、次の世代に豊かな海を伝えたいという思いが、それを実現させたのです。この国際認証取得を機に、私たちは、地域や海の未来について考えるようになりました。他者を思う心こそ、未来の海をつくる。私はそう確信しています。





式典行事

大会決議

豊かな海づくり大会推進委員会会長
全国漁業協同組合連合会代表理事会長 岸 宏

私たち日本人は古来より自然を尊び、海・川・森と共存しながら生業^{なりわい}を営んできた。そして、共存からもたらされる海の恵みは、人々の命をつなぎ、彩りある多様な魚食文化を育んできた。

とりわけここ宮城県は、世界三大漁場のひとつ金華山^{きんかざん}・三陸沖の漁場を有し、豊穡^{ほうじやく}の海から良質な水産物を国民に提供する重要な役割を果たすとともに、未曾有の災害をも乗り越え、復興を果たしてきた。

私たち水産関係者は、被災地の方々とともに、環境を守り、水産資源の持続的な利用を通じて、将来にわたって、豊かな海を子どもたちにつないでいく責務がある。

本年は、ここ宮城県において、「よみがえる 豊かな海を 輝く未来へ」を合言葉に、東日本大震災から復興した姿を示すとともに、自然との共存を通じ、持続的な漁業の実現に努めていくことを、ここに決議する。



大会旗引継

村井嘉浩宮城県知事から次期開催県の齋藤元彦兵庫県知事に大会旗を引き継ぎました。



次期開催県あいさつ

兵庫県知事 齋藤 元彦

本日、天皇皇后両陛下にオンラインでの御臨席を仰ぎ、第40回全国豊かな海づくり大会・みやぎ大会が盛大に開催されましたことを、心からお喜び申し上げます。

また、宮城県の皆様が、東日本大震災からの創造的復興に向け、懸命の努力を重ねてこられたことに、阪神・淡路大震災を経験した兵庫として、県民を代表し心から敬意を表します。

次回は兵庫県での開催となります。兵庫は日本海と瀬戸内海、太平洋に続く紀伊水道の3つの海を有し、海域ごとに様々な漁業が営まれています。

また、会場となる明石市が面する瀬戸内海では、海の生態系に不可欠な窒素やリン等の栄養塩の管理をはじめ、豊かで美しい海を創出するための取組が進んでいます。来年の大会では、こうした本県の姿を広く発信し、その取組の輪を全国に広げていきたいと考えています。

来年はぜひ兵庫にお越しください。日本の縮図といわれる兵庫の多彩な魅力を満喫していただけるよう、県民一同、おもてなしの心で皆様のお越しをお待ちしております。

結びに、天皇皇后両陛下の弥栄を心からお祈り申し上げますとともに、御列席の皆様の御多幸を祈念いたしまして、挨拶いたします。



閉会のことば

宮城県議会議長 石川 光次郎

石川光次郎宮城県議会議長の「閉会のことば」で式典が終了しました。

